

特 43

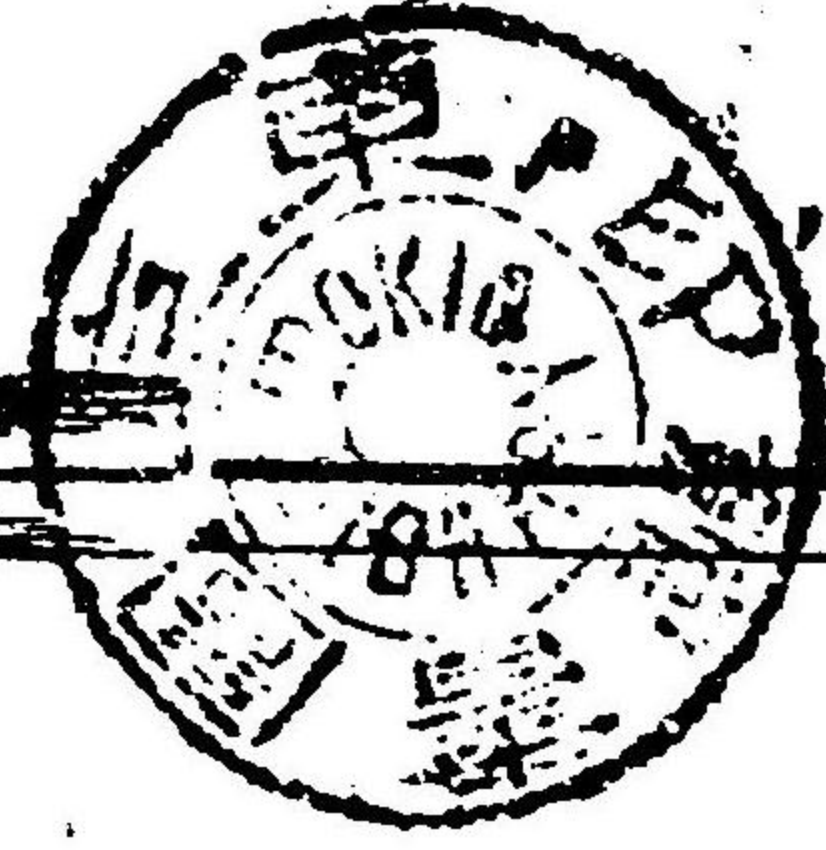
367

遞信省認可

第五號

因伯私立勸業會報告

明治廿二年三月十六日刊行





例言

此報告ハ毎月一回會員ニ配達スルヲ定例トシ凡テ農商工ニ關スル細大ノ事ヲ載記ス

苟モ勸業上有益ノ記事論說ハ會員ノ内外事ノ新陳ヲ論セス之ヲ集メテ參考ニ充ツ之ヲ取ルト捨ルハ固ヨリ諸君ノ擇フ所ニ任ス

凡ツ本會ノ目的ニ係ル寄書及ヒ疑件ノ質問ハ直ニ之ヲ記載シ之ヲ公ニ評說ヲ求メ或ハ本會ノ意見ヲ述スルコトアルヘシ

目次

- 本會記事
- 志賀雷山氏農事演說筆記
- 質問應答數件
- 雜報
- 米ノ輸出ニ關スル景況
- 煙草ノ輸出ニ關スル景況

因伯私立勸業會報告第五號

廿二年一月分

○本會記事

明治廿二年一月十七日本會第二十二回小集會ヲ烏取西町本會事務所ニ開ク而シテ本會定期小集會ハ客年十一月開會スヘキノ處都合ニ據リ延會セシ折柄今回農學士志賀雷山氏ヲ本縣ニ聘セラレ縣下巡回農家經濟及農事上ノ學理ヲ演舌セシメラル、ノ趣キナルニ因リ幸ニ同氏ヲ本會ニ聘シ講話會ヲ開ク故ニ此日ヤ特ニ會員ノ内外ヲ問ハス參會聽問ヲ許シタリ出會員萩原會頭始メ會員及會員外等無慮三百人ニ及ブ開會午後第三時ナリ亦々當日ハ武井本縣知事臨場セラレ志賀氏ノ演舌ニ先チ滿場ニ告ラル、ニ今此ノ演壇ニ上リ演舌アル志賀氏ハ予カ最モ親愛ナル交情厚キ知友ニシテ常ニ多忙ニ居ラルレド農事上ニ博識ナル



人ニアレハ縣下農事上ニ利益ナル演舌ヲ致シ貫ヒ度感ヲ起シ頃日子カ依頼セシヲ以テ今度態々大坂ヨリ來縣アリシナリ依テハ諸氏能ク同氏カ演舌アル處ヲ聞テ又々質議セント思フイアレハ質問等アルヘキ旨ヲ演ヘラレ夫ヨリ志賀農學士ハ知事ノ紹介ニ因リ演壇ニ上リ則チ太古農業ノ起原及ヒ現在農家ノ景況等ヲ演舌アリ又々次テ質問應答等アリシカ時間數刻ヲ移シ午後第六時ニ至リ閉會セリ其演舌及質問應答筆記ヲ左ニ掲載ス

志賀雷山氏農事演舌筆記

余ハ本縣知事ノ招ニ應シ當地ニ出張セシヲ以テ爰ニ來集ノ諸君ニ對シ農事上變化ノ模樣及ヒ其經濟ノ度合等聊カ

余カ取調ヘタル所ヲ演ヘ以テ諸君ノ參考ニ供セントス依テハ余カ意見チ一通リ述ヘタル上ハ又々諸君ノ質問ヲ受ケ余カ說ハ諸君ノ參考トナリ諸君ノ說ハ余カ爲メニ土地ノ狀景ヲ知ルノ方便ヲ執ラントス

農業上ニ就キ細カニ之ヲ演述セントセハ述モ僅々數時間ニ演ヘ盡シ難シ特ニ本日ハ時牌已ニ三時ヲ報セシヲ以テ是ヨリ其要点ノミ簡短ニ述ヘン仍テハ仮リニ問題ヲ設ケテ農業ノ起原即チ太古ノ農業トシ中古ノ農業ハ沿革特ニ多キク少時間ニ盡シ難キヲ以テ姑ク措キ直チニ現在ニ移リ夫ヨリ將來ノ見込ニ及ホシ而シテ復テ現在ニ立戻リ以テ其局ヲ結ハントス

元來日本ノ農業ト外國ノ農業ハ其起因チ異ニスル處アリト雖モ全体農業ナルモノハ如何ナルヲヨリ始リシヤテ諒



知セントセハ今マ日本ニ百姓ト云フ言葉アリ之ヲ証スルニ足ルヘシ抑モ百姓トハ古ヘ衆民ヲ指シタル總稱ナリ今マ農家ヲ指シテ百姓ト云フ即チ此ノ百姓ノ語ハ遂ニ農家ノ背名詞タルニ至レリ是レ故チキコ非ス太古ハ固ヨリ士農工商ノ別アラス皆チ農業ニ依テ自活ノ策ヲ採リ漸次社會ノ變化ニ從ヒ士農工商ニ區分セシヲ以テ今マ單ニ農家ヲ指シテ百姓ト稱スルニ至レリ渾チ人類ノ生活ハ必ス農業ニ依ラサル可ラス即チ農業ノ第一ニ開ケシ所以ナリ之ヲ例セハ茲ニ人アリ或ル地ニ航海セントス中途忽チ颶風ニ遇ヒ爲メニ其航路ヲ失シ一嶋嶼ニ漂着ス然ルニ之レヲ救助スルノ道ナシトセン歟此人々ハ何チ以テ生活シ得ヘキヤ必ス其途ヲ求メサル可ラス其方法種々アリト雖モ先ツ土地ヲ開キ穀菜ヲ植ユ或ル部分ハ海濱ニ沿テ以テ漁業

チ初メ或ル部分ハ山林ヲ跋渉シテ以テ鳥獸ヲ驅ルヘシ然ルニ後ノ二手段ハ第二ノ方法ニシテ其第一着手ハ穀菜ノ栽植ニ外ナラサルヤ明ナリ即チ國ノ始リハ如此モノニシテ我カ日本ハ此ノ島嶼ニ吹付ケラレタル人衆ヨリ成立チシモノト思ハサル可ラス夫ヨリ世ノ進歩ニ隨ヒ漸次其度チ進ムト雖モ如此ク元來無代價無賃錢ノ人ヨリ起レリ何トナレハ只チ自己カ生活ノ爲メ其ノ業ヲ取り決テ他人ノ爲メニ賃錢ヲ得テ労働セシ者ニ非サレハナリ夫レ労働ノ爲メニ費ス時間ハ貴重ナリ此ノ貴重ナル時間チ労働ニ費サハ其代價ナクシテ可ナランヤ今ノ農家ニシテ幾許ノ代價チ得ント云ハ、余未ダ之ヲ知ル能ハサルナリ彼ノ歐州各國ノ農業ハ之レト反對ニシテ則チ當初牧畜ヲ以テ成立シチ知ルナリ故ニ穀菜ハ之レカ飼料ニ供センガ爲メ植ヘ



シモノニシテ泰西ノ農業ハ牧畜ヲ以テ起リシモノト云ハ  
 サルヘカラス我日本ハ自己ノ食料ニ供セシカ爲メ穀菜ヲ  
 植ユルノ習慣トナリ當初ハ永遠ヲ計リシモノニ非スト雖  
 此習慣ノ存スル所後世ニ至リ尙ホ脱スル能ハサルナリ古  
 書ヲ閱スルモ土地ノ廣狹植物人口ノ多寡ヲ以テ其強弱ヲ  
 見ルト雖此彼ノ歐州ノ如キハ牧畜殊ニ羊ノ多少ヲ以テ其  
 優劣ヲ計ルカ如ク其相違ハ歴史上載スル所ノ事實ニシテ  
 均シク之ノ農業ニシテ其目的ヲ殊ニスルヲ如此之ノ自然  
 ノ習慣ナリト雖此其得失如何ヲ考究シテ將來ノ見込ヲ定  
 メサルヘカラス以上太古農業ノ起原ニシテ余ハ之レヨリ  
 現在ノ農業ニ移ラントス  
 昔日ノ農業ト今日農業トヲ比較セハ其間幾許ノ進歩ヲ見  
 ルニ至リシヤ十年ノ間ニハ必ス二三ノ進歩アルヘシト雖

凡何割何分ノ進歩ヲ呈セシヤハ確言スルヲ能ハス如何ト  
 ナレハ學問理上ノ進歩即チ規律ナキヲ以テナリ外國ノ農  
 業ハ規律正シク仮ヘハ五日ヲ要スルノ業ハ三日ニシテ爲  
 シ得ヘク三日ノ業ハ二日ニシテ足ルニ至リシ等判然其進  
 歩ノ度合ヲ知ルヲ得ルナリ然レハ我農業上ニ於テモ年  
 々幾分ノ進歩ヲ來セルニハ相違ナキヲ以テ尙ホ之レヨリ  
 改良スヘキノ点ハ規律ヲ正シ其進歩ノ度合ヲ知ルノ必要  
 ナルヲ諒知セサル可ラス今日農家ノ有様ハ依然昔日自  
 耕自食ノ習慣ヲ固守シ即チ無代價無賃錢ノ農家ナレハ農  
 具ノ如キモ又其性質ニ似タル所ノモノニシテ甚タ迂遠ナ  
 ルモノト云フヘシ今マ若シ農家ノ手間賃ヲ一日十四五錢  
 乃至二十五錢トシ其ノ肥料代金等ヲ收穫物ヨリ差引計算  
 セハ蓋シ今日ノ農業ハ其益アルヲ知ル能ハサルナリ之レ



ナ要スルニ物産ノ利益ヲ圖ラヌソ自己ノ入用ヲ主トシ各  
 自各種ノ働キニシテ即チ太古自活の風習ナリ如此キハ  
 到底農業ノ利益ニ非サルナリ余曾テ他ノ地方ニ於テ農家  
 ニ就キ取調タル處ニ依レハ作物ノ七分ハ自家ノ消費ニ充  
 テ其三步ヲ賣却ス今日ノ農家ハ大概如此是亦實際不得  
 止處ニシテ敢テ一概ニ之レヲ非難スルニ非スト雖モ要ス  
 ルニ自己ノ消費ヲ主トスルハ大ナル不利ニシテ若シ右ノ  
 如ク自分消費ノ余三分通リテ國産トスルモノトセハ到底  
 國産ノ興隆ヲ見ルニ能ハサルヘシ宜シク社會進步ノ度合  
 ニ適應スルノ策ヲ講セスンハアル可ク尙ホ農家ノ經濟  
 ニ立入り聊カ述ヘントスル所ノモアリ尤モ特有物産ア  
 ル地ハ始ク措キ一縣一郡ノ平均ヲ以テスルニ驚クヘキモ  
 ノアリ何トナレハ自己ノ所有スル地面ニ對スル地租ヨリ

其他植付肥料等ニ要スル諸費用及ヒ公証ヲ受ケタル借財  
 等ヲ差引セハ米麥二種ノ收穫ヲ以テ漸ク計算ヲ立ルヲ  
 得ヘシ即チ可ナリノ地面ニシテ一人ニ付壹圓五拾錢乃至  
 五圓ニ當ルヲ以テ彼ノ諸費用ヲ差引セハ五拾錢乃至壹圓  
 五拾錢ノ得益トナルト雖モ之レニ三圓乃至五圓ノ借財ア  
 リトセハ到底此負財ヲ辨償スルニ能ハサルヘシ如此モノ  
 ハ畢竟其得益僅少ナルカ爲メ一時借リノ負財モ何レノ時  
 ニカ大借トナリ之レヲ返辨スルノ道ナフシテ其地面ハ終  
 ニ大農家ノ所有ニ歸シ彼ノ借財ニ對シ拂フ所ノ利息ハ忽  
 チ損料ト變化シ遂ニ小作人トナラサルヲ得ス如此例ハ世  
 間比々見ル所ニ我國小作人ノ多キヲ以テ証スルニ足ル  
 ヘシ右ハ畢竟天然ノ變化ニ委スルノ致ス所ニ外ナラサル  
 ナリ焉知ラシ今日ノ地主モ或ハ後日ノ小作人タルヲ



以上現在農家ノ有様ニシテ是ヨリ將來ニ見込テ論及スヘシ  
 我日本ハ外國トノ交際日尙ホ淺キヲ以テ農業上著シキ變  
 化ヲ視サルモ彼ノ歐洲ノ如キハ農工商三ツノ鈞合ヨリ來  
 ス所ノ變化ハ實ニ著シク如何トナレハ開明ノ地ハ工業  
 ノ盛ナルカ爲メ隨テ農業上變化ヲ來ス所以ニシテ本邦ノ  
 如キモ將來此ノ大變化ヲ見ルニ至ルヤ必セリ視ヨ大坂ヨ  
 リ山陽道ニ通ル鉄道モ姫路迄ノ竣工ヲ告ケ運輸ノ便ヲ  
 開キタルヲ以テ此ノ國々ハ後日工業ノ盛ニ起ルヘキ土地  
 ニシテ此工業カ即チ農業ニ變化ヲ與フル起因ナレハナリ  
 前ニ述ヘタル如ク彼ノ無賃錢ノ農家ナレハ得失不償シテ  
 終ニ自己ノ地面モ他人ノ所有ニ歸シ如何トモ爲ス能ハサ  
 ルニ際シ工場ノ如キハ之ニ反シ其勞働ニ對シ幾許ノ賃錢  
 ヲ給スルヲ以テ已ニ轉業セントスル所ノ農業者ハ爭テ此

工場ニ雇ハル、ナラン果シテ然ラハ從來肥料其他ノ費用  
 ニ汲々タルノ間ハ反テ無賃錢ニシテ爰ニ始メテ賃金ヲ得  
 ルノ身トナルヘシ即チ此賃金ハ農業ニ變化ヲ與フル起因  
 ナルヲ了知セサル可ラス而シテ彼ノ地面ヲ底當ニ取リ  
 終ニ自分ノ所有トセシ大農者ニ於ケルモ如此工場ノ爲メ  
 人ノ價值定マリタル以上ハ是等ノ人々ヲ使役セントスル  
 モ到底得失不相償ヲ以テ爰ニ始メテ西洋風ノ農業ニ改メ  
 サル可ラス西洋風ノ農業トハ他ナシ器械ヲ使用シ可成人  
 力ヲ省ク策ヲ用ユルナリ否ラサレハ幾十町ノ地所アルニ  
 モセヨ到底之レヲ維持スルヲ能ハサレハナリ彼ノ歐洲諸  
 國殊ニ都會近傍農業ノ變化ハ皆チ如此モノニシテ我日本  
 モ自然此變化ヲ來スハ理勢ノ免カレサル所ナリ然リ而シ  
 テ此變化ニ二様アリ一ハ人爲ノ變化ニシテ一ハ自然ノ變



化ナリ此ノ自然ノ變化ナルモノハ甚タ危險ナルモノニシテ  
テ仮ヘハ爰ニ父母ノ手ヲ離レ稍ヤ獨歩スル所ノ小兒アリ  
トセンカ其初メニ當テハ或ハ高キ椽ヨリ落テ或ハ深キ溝  
ニ墮ツル等不可測ノ禍害ニ陷ルモ亦タ知ル可ラス然レモ  
其ノ失策ヲ重ヌルニ隨ヒ遂ニ自ラ注意シ此禍害ヲ避クル  
ニ至ルヘシ是レ所謂天然ナリ亦タ常ニ先導者アツテ此場  
合ハ斯クスヘシ或ル場合ハ斯クセヨト豫メ之ヲ未發ニ防  
クモノハ則チ人爲ノ工風ナリ今マ農業ノトタル此兒童ノ  
所爲ト一轍ニシテ天然ノ變化ニ放任シ種々ノ困難ヲ究メ  
然シテ後チ始メテ悟ルノ危險中ニ在ランヨリハ寧ロ人智  
ヲ運ラシ此レヲ未發ニ防クノ勝サレルニ苦カサルナリ又  
現今田面ノ區域ヲ視ルニ恰モ基ヲ固ムニ當テ盤上黑白ノ  
石子亂雜散在セルモノ、如ク外人ノ常ニ笑フ所ニシテ是

等ノ田面ハ早晚必ス改良セサル可ラサレモ是レハ古來ノ  
習慣ニシテ容易ニ改ムル能ハサル事實アルヲ以テ先ツ今  
日ノ處ニテハ自分ノ地面ヲ他人ノ有トセサル様維持シ得  
ヘキ迄ハ之ヲ維持スルノ方法ヲ立テサル可ラス其方法ト  
ハ何ソヤ他ナシ工商農ノ三業者互ニ聯絡シテ其改良進歩  
ヲ計ルニアリ而シテ又チ此ノ改良進歩ニ二種アリ一チ獨  
立ノ進歩ト云ヒ一チ關係ノ進歩ト云フ即チ工商業ハ概チ  
獨立ノ進歩ヲ爲シ得ヘク農業ハ關係ノ進歩ニ依ラサル可  
ラス譬ヘハ今マ衆ニ問テ曰ハソコ此沿革ハ長キヤ短キヤ  
又此茶碗ハ大ナリヤ小ナリヤ或ハ彼ノ山ハ高キヤ低キヤ  
ト衆此レニ答フルノ語ナカラン何トナレハ此問ヤ獨立ノ  
稱語ナレハナリ更ニ他物ニ比シテ之レヲ問ハ、衆必ス云  
ハソトス曩キノ沿革ハ何々ヨリ短キモ何々ヨリハ長シ又



彼ノ茶碗ハ何々ヨリ小ナルモ何々ヨリ大ナリ彼ノ山ハ何  
 山ヨリ低キモ何山ヨリハ高シト曩キニ答フル能ハサルモ  
 ノモ愛ニ至テ容易ニ答ヘ得ル所以ノモノハ即チ關係ノ稱  
 語ナレハナリ獨立ト關係ノ稱語ハ如此而シテ余カ農業ハ  
 關係ノ改良進歩ニ依テサル可ラスト云フ所以ノモノハ工  
 業ニセヨ商業ニセヨ概テ農業以外ニ運動スルコトヲ得ヘケ  
 レハナリ然ルニ或人ハ曰ク農工商ノ三業ハ相ヒ均一ニ運  
 動スルモノナリト余ハ未ダ其理ヲ發見スル能ハサルナリ  
 故ニ余ハ云フ工商ノ業ノ振興ハ農業ノ進歩ヲ促スモノナ  
 リト何トナレハ工業者ノ如キハ其原料ヲ採ルコト自在ニ  
 テ彼ノ國ニ取ルコト能ハサレハ此ノ國ニ採ルヘシ若シ又本  
 邦ニ農産物ナシト假定セシカ之ヲ外國ニ得テ製造ノ後チ  
 又之ヲ外國ニ販賣スルコトヲ得ヘシ商業者ト雖ヒ亦然リ

現ニ廣島産エタ島木綿ノ如キハ河内ノ商人之ヲ買ヒ附ス  
 ルニ河内木綿ノ名ヲ以テシテ其販路ニ因セサルモノ  
 ハ畢竟獨立ノ進歩ヲ得ヘケレハナリ農業ハ之ニ異ナリ工  
 商ノ需用ニ供スルモノニシテ即チ工業者ニ關係ヲ求メ  
 以テ運動スルモノナレハ工業進歩ノ割合ニ農業モ又進  
 歩セサル可ラスト譬ヘハ工業ハ一年ニ一丈進歩スルモノ  
 トシ農業ハ一年三尺ツ、進歩スルモノトセンカ一年ヲ以  
 テ之レヲ見レハ七尺ノ相違ナリト雖ヒ此ノ割合ヲ以テ三  
 年ヲ経過セハ工商ハ三丈ノ進歩ヲ得農ハ九尺ノ進歩ニ過  
 キス即チ二丈一尺ノ相違ヲ現出スヘシ故ニ農業ト工業  
 トノ差多クモ彼ノ一丈ニ對シ七尺ノ差アル割合ヲ保持セ  
 サレハ懸隔甚シキニ至リ三業ノ釣合ヲ得ルコト能ハサルニ  
 至ラン彼ノ英國ノ如キハ概テ瘠地ニシテ特有産物ナシト



雖は農工商ノ三業俱ニ盛大ナル所以ノ者ハ畢竟其鈞合宜  
キヲ得タルニ外ナラサルナリ我國ノ如キモ亦々然ラサル  
ヲ得サルナリ是ヲ以テ農業者ハ工商業者ニ關係ヲ求メサ  
ル可ラス之ヲ求ムル方法手段ノ最モ大切ナル者三ツアリ  
一ハ同種物産ヲ多量ニ作ル一ハ品質ヲ精良ニスル一ハ  
品位ヲ一定ニスル一之レナリ否ラサレハ工商業者ト鈞合ヲ  
保ツト能ハサルノモナラス到底之ト聯絡スルヲ得ヘカ  
ラズ是レ世運ノ進歩ニ從ヒ同業者聯合ノ必要ナル所以ニ  
シテ彼ノ古代ニ於テ自己ノ食物ヲ作りシ如ク世ノ需用供  
給如何ヲ察セス唯自己ノ需用ヲ先キコスルノ不利ナル所以  
ナリ故ニ相俱ニ協議シテ物産ノ興隆殊ニ本邦特有物産ノ  
隆盛ヲ圖ラサル可ラス其特有物産ノ重ナル者ヲ舉クレハ  
藍、桑、茶、煙草、菓物、砂糖等ニノ麻綿之ニ亞ク此特産物中ニ就

テハ商業者ト最モ密着ノ關係アレハ其販路ヲ考ヘ作り方  
ヲ工風ニ即チ自分ノ入用ノ爲メニアラスセテ世ノ需用ニ  
供スルノ目的ヲ以テ之ヲ興隆セサルヘカヲサレナリ且又  
今日ハ外國交通ノ特運ナレハ農業者ハ傍ヲ牧畜ノ業ヲ盛  
ニシ彼ノ特産物ト並行セサルヘカヲス米國ノ盛ニ曰ク穀  
物ヲ賣ルハ貧農ノ所爲ナリト何トナレハ米國ノ如キ穀物  
ハ專ラ牧畜用ニ供スルヲ主トシ自分ノ食料ニ充ツルハ次  
キトスルヲ以テ此旨アリ日本ハ牧畜ヲ以テ農業ノ元ニ立  
テサレハ事情異ナリト雖も兎角賣物ヲ主トセスシテ自用  
物ヲ混シ其區別ヲ立テサル者ハ其組織宜シキヲ得タルモ  
ノト云フヲ得サルナリ余ハ是ヨリ再ヒ現在ニ立戻リ其方  
法手段ヲ談スヘシ  
以上演ヘタル如ク特産物ヲ興スハ則チ經濟ヲ挽回スルノ



原因ニシテ其經濟ヲ挽回スルハ則チ聯合ニアリ故ニ余ハ  
 農業組合ヲ設クシテ必要ナルイテ感セリ此組合ノ區域ハ  
 可成廣キヲ要スト雖ハ初メハ廣クセス數ヶ村ノ組合ニ止  
 ヲ而シテ第一番ノ會合ニ着手スヘキモノハ農業ノ年中行  
 事ヲ作ルニアリ此年中行事ナルモノハ一年三百六十五日  
 ノ欄ヲ設ケ米麥其他ノ植付及耕耘肥料等ニ至ル迄農業百  
 般ノ仕事ヲ日々ニ割付ケ農業ノ順序ヲ整理スルニ在ルナ  
 リ全時ニ全一ノ物品ヲ收穫スルイテ得一定ノ產物ヲ生シ  
 自然商業者ヨリ來テ之レヲ求ムルニ至ル亦シ商業者ト聯  
 絡スルノ方便ナリ然ルニ現今農家ノ有様ハ其標準トスル  
 所甚シ不完全ニシテ假令ハ自家ノ蒔附ハ隣家ノ誰此ノ  
 着手ヲ待テ之ヲ爲サントスルニ或ル時ハ其ノ特ム所ノ標  
 準則チ隣家ノ蒔付ハ平年ヨリ十日位モ後レ居ル等ノ例少

キトモ是レ往々見ル所ノ不都合ニシテ組合ニ於テ相談  
 ヲ整ヘ以テ是等ヲ一定セハ其裨益大ナルヘシ又第二ノ會  
 合ニ於テハ組合内特產物ノ種類ヲ定ムルノ相談ヲ爲スヘ  
 シ尤モ或ル部分ハ藍ヲ作ルヘク或ル部分ハ煙草ヲ作ルヘ  
 シ敢テ此組合ハ必ス同一ノ作物ヲ爲スヘシト云フニアラ  
 スト雖ハ只ク其地ニ適スル所ノ特產物ヲ定メ之レヲ以テ  
 金箱トシテ其他ノ作物ハ一家ノ消費ニ充ルテ目的トスヘシ  
 第三ニ着手スヘキハ先ツ特產物ノ一定シタル以上ハ可成  
 該產物ノ擴張ヲ計リ充分丹精ヲ込メ進歩ノ方法ヲ考フヘ  
 キヲナリ如斯クシテ將來經濟ヲ維持スルノ見込立チタル  
 事ハ専門ノ技術家ヲ雇ヒ入レ可成迂拙ヲ去テ精功ニ進ミ  
 農業上規律ヲ正クスヘシ以上三点ハ農家今日ノ急務ニシ  
 テ一日モ忽シテ付ス可ラサル所ノモノナリ彼ノ米國ノ如



キハ僅ニ百年余ニテ當時農業ノ進歩ハ世界第一ニ居ル  
所以ノモノハ畢竟農業上學理ノ應用ヲ極メ規律正シク進  
歩セルノ致ス所ニ外ナラザルナリ本邦農家諸氏モ深ク此  
点ニ注意セサル可ラサルナリ諸氏能ク之ヲ諒セヨ

○質問答録筆記

志賀雷山曰 前席ニ於テハ聊カ農業上ニ關スル管見ヲ述  
ヘシカ是ヨリ諸君ノ質問ヲ受ケルコト、セシ元來質  
問ナルモノハ其土地ノ事情及ヒ從來ノ慣行ヲ了得スル  
ニ於テ大ニ利益アリ故ニ其質問ニ付テ滿瑣諸君從來ノ  
經驗ニヨリ得ラレタル利益ノ談ヲ併セテ聞カソテ希  
望ス而シテ農業ノイタル其學問ノ區域太甚ク廣漠ニシ

テ假令ヒ醫學廣シト雖尙一層廣キヲ感セリ凡ソ學問ニ  
ハ専門科アレハ余カ關係外ハ平素取調ヘ居ラサル様ノ  
モノナレト其關係ノ事情ト亦知ル所ナキシモアラス  
故ニ諸君ニ於テ疑義ノ点ハ充分ニ質セラレソテ望ム  
間近來何處モ稻米改良ノ説起リ吾々ニ於テモ固ヨリ其改  
良説ノ善良ナルヲ信シ一二ノ經驗ヲ積ミシ所果シテ  
充分ノ好結果ヲ得タリ尙ホ本年モ改良説ニヨリ行ヒ居  
レリ并ハ他ニ非ス種粃ヲ寒中ヨリ播種ノ候ニ至ル迄浸  
水ニ置クナリ元來此浸水ノイハ如何ナル理ニヨリ適  
當セルコトナリヤ一應其原理ヲ承リタシ  
答種粃ヲ圃ヒ置クニ付テハ他ニ色々ト法アレト先ツ只  
今ノ質問ニ答フヘシ浸水ノイハ道理上至テ其當ヲ得何  
トナレハ種ニ變化ヲ與ヘサルノ主意ナリ抑モ種ニ變化



ナ與ヘサレハ健全ニ保ツイヲ得ヘシ健全ニ保ツイヲ得  
 レハ從テ宜シキハ理ニ於テ然リ尙ホ之レヲ細言スレハ  
 冬期ハ渾テノ種物發芽ノ精氣ヲ止ムルノミナラス寒水  
 ナ以テ空氣ノ抵觸ヲ絶ツルハ即チ種子ニ變化ヲ與フル  
 イナケレハナリ(然レハ余カ答フル所ト林遠里氏ノ説ト  
 ハ聊カ相違スル所ヲ道カレヌ何トナレハ實地説ト學理  
 説トノ相違アレハナリ林氏ノ説ニヨレハ空氣ニモ晒ス  
 イアル機聞ケル余ハ決シテ之レヲ望マス何トナレハ變  
 化ヲ防クノ主意ニ背戾スルヲ以テナリ)夫レ種子ノ發育  
 ハ何カ引起スカト云フニ即チ空氣濕氣濕氣ノ作用ニ依  
 ル此三者ハ種子ニ發育ノ力ヲ與フル大原因ナリ若シ之  
 レカ間違フルハ之レカ變化ヲ屢々スルニヨリ腐敗ニ至ルヘ  
 シ故チ以テ余カ空氣ニ晒スハ不可ナリト謂フ所以ナリ

且又種子ニシテ此三者ニ出遇ハキルハ假ヒ三年ノ久  
 シキ間貯ヘ置クモ始終其種子ハ發育ノ力ヲ止メ眠リ居  
 ルヲ以テ決シテ變化ヲ受クルナキノ原理ニヨリ浸水法  
 ハ道理上尤モ可ナリト謂フ所以ナリ今其證ヲ舉ゲ談ス  
 ヘシ嘗テ英國ノ共進會ニ於テ或ル農學家ノ出品物アリ  
 タリ并ハ埃及ノ古墳墓ヲ掘リシ所一ノ木乃伊チ發見シ  
 タリ其棺中ニ鐘ノ加キモノアリテ其鐘ハ蠟付ケトナシ  
 居リ至テ堅固ナリシ依テ其鐘ヲ披キシ所蚕豆ヲ貯藏セ  
 リ或ル古物家ノ鑑定ニヨリハ凡ソ二千年以前ノ久シキ  
 者ニ係ルトノイナリキ又農學家ノ説ニ該蚕豆ハ日光空  
 氣及ヒ濕氣ヲ受ケナル所ノ鉄罐中ニ存在シ土中ニ埋マ  
 リシモノナレハ他ノ働キヲ受ケサリシモノナレハトテ  
 其レニヨリ段々ト手當チナシ試シノ爲メ詩附ケシニ漸ク



數本發芽其結果ヲ得タルモノヲ即チ先キノ共進會ニ  
 出セシナリ是其尤モ久シキニ涉ル種子ナリト雖變化ヲ  
 受ケスレテ全ク眠リ居リシモノナレハ斯ク幾千年ヲ經  
 ルモ其性質ヲ變セザリシ所以ノ明證ナリトス故ニ浸水  
 法ハ變化ヲ受ケス其貯藏ニ尤モ適當セルノ原理ナリ  
 問ズイ虫ノ防キ方ハ如何コナス尤モ宜シキヤ  
 答ズイ虫ハ苗代田及本田ノ驅除ヲ異ニス先ツ苗代田ニ生  
 セシキノ驅除方ハ元來ズイ虫ナルモノハ最初ハ水涯ハ  
 ニ居ル者ハ水中ニ在ルモノニ非ラス故コ入水ノ溝ヲ  
 網クノ漸々コ水ヲ引キ込ミ苗ノ尖頭數分ヲ殘スニ至リ  
 止ムヘシ斯クスルキハ賊虫ハ水ト共ニ苗先キノ上ルヘ  
 シ其漸ク頂上コ水ト虫ト共ニ遠シタルヲ認メ是時鯨油  
 ナ苗代田ニ一車ツ、垂シ一面銀色ノ加クナルヲ見テ而

シテ笹竹ヲ以テ其苗ヲ拂フキハズイ虫ノ蝶ハ鯨油ニ觸  
 レ乍ナコ死スルモノナリ次ニ本田ニ生セシズイ虫ハ最  
 初ハ水涯ヨリ喰込ムモノニシテ多クハ其穴一定ノ高サ  
 ナリ故コ出來得ヘキ田ナラハ其水ヲ穴ト平準ヲ保シ  
 メ一反歩ニ付虫害少キキハ五六合多キキハ八九合程モ  
 入レ攪拌スルキハ虫之レニ觸レ死スルモノナリ余曾テ  
 試シシコ果シテ効アリ試ムヘシ又チ其虫害ヲ防クニ於  
 テ尤モ注意スヘキハ稻株ナリ是亦收穫後一株毎ニ器械  
 ナリテ拔キ取り能ク乾シタル後之レヲ燒キ灰ト爲シ元  
 ノ田ニ返スナリ肥料ノ効アリ利益ヲモ得ルノ便利アリ  
 又該虫タル畦畔等ノ叢ニ繁殖スルモノナレハ叢ハ可成  
 ナキ様ニシテ該虫ノ宿所ヲ絶タサルヘカラス又藁等  
 ニモ宿スルモノナレハ其儘ニ藁ヲ貯藏シ積ミ置クハ不



可ナリ草履或ハ草鞋トカ繩トカ渾テ此等ノ類ニ支用ス  
ヘシ

問 凡動物ハ体生卵生ナリト云フ果シテ然ルカ或ハ草木  
其他ノ腐敗物ヨリ變化シテ虫ノ發生スルコトアリヤ

答 然リ渾テ動物ハ体生卵生ノ外ナキナリ尤モ發生スル  
コトハナキニアラサルナリ

問 麥畑ニ海水ヲ施スノ利害ハ如何尤モ該畑タル海濱ヲ  
隔ツル十四五丁ノ地ニシテ而シテ其海水モ三十日乃至  
四十日間安スマセ置キ然ル后ニ施シ來レリ

答 海水ハ麥畑ニ施シ能ク利リモノナリ學問上ノ理屈ニ  
テハ二十年前ヨリ其説起レリ乍去單ニ海水計リ施スハ  
尤モ惡シ他ノ肥料ト共ニ施シテ可ナリ即チ澤山ノ養ヒ  
ノ中ニ就テ一助トナルモノナリ

問 米作ニハ如何

答 麥作ニハ可ナレド米作ニハ尤モ不可ナリ

問 當地ハ稻ヲ地上ニ干スノ習慣ナルカ降雨ノ爲メニ甚困  
難ヲ覺ヘリ其方法如何

答 稻ヲ地上ニ干スハ宜シカラズ必ス干木ヲ設ケ之レニ掛  
ケテ干スノ勝レルニ若カズ又或ル地方ニ於テハ此干燥  
用ノ爲メニハソノ木ヲ植ヘタルモノアレヒ之レハ田面  
ノ肥料ヲ吸收スルノ害アルモノナリ

問 去ル十九年ニ巡回教師船津氏ノ説ニ麥ノ黒穗ヲ防シハ  
最初ノ種子ヲ灰汁ニ浸セハ可ナリトノコトナリキ其理由  
ハ如何

答 其要点ヲ擧クシレハ第一ハ黴菌ヲ殺スコト第二ハ黴菌ヲ招  
クヲ防クコト第三ハ發芽ヲ助クルコト第四ハ外部ヨリ來ル



種々ノ働キヲ防ク一等ノ譯ナリ

問 麥種ヲ菜種油ニ浸シテ然ル屆時ケハ宜シトノ一ナリキ  
依テ昨年之レヲ試ミシニ果シテ好結果ヲ得シニヨリ尙  
ホ本年モ斯クナセシ所發芽ノ工合至テ惡シ如何ナル譯  
ニヨルヤ

答 油ニ浸スハ惡シ即チ灰汁及小便ニ浸スヲ宜トス只今ノ  
質問ノ如キ發芽ノ工合惡シカリシハ全ク油ノ爲メナラ  
シカ小便ニ浸スノ度ハ純粹ノ生小便ナラハ四十分乃至  
一時間ニテ宜シトス余ノ經驗ニテハ最初小便ニ浸シ之  
レヲ乾シ貯ヘ置キ播種スルヲ宜シトス

問 西洋小麥ハ在來物ヨリ品質宜シキモ成熟期至テ遅シ之  
レヲ早カラシムルノ便法ハナキ歟

答 之レハ年々習慣ヲ付ケ早カラシムルヨリ外改方ナシ

問 水田ニ植付後屢々肥料ヲ施セシ是レハ得失如何ナリヤ  
答 地質ニヨリ異ナレト元來ノ方則ハ最初ニ一邊肥料ヲ施  
スニ在リ即チ粘着質ヲ帶フルノ地ナレハ最初施シテ可  
ナリ尤モ砂地ハ此限リニ非ス  
右ニテ質問會ヲ了ヘ一同退場セリ

### ○雜報

左ノ二件ハ谷前農商務大臣歐米巡回取調書中ヨリ拔萃シ  
テ爰ニ掲ケ以テ當業者ノ參考ニ供セントス

米ノ輸出ニ關スル景況ノ管見

米ハ我國人民ノ依テ以テ生命ヲ賴フヘキ必需品ナルノミ  
ナラス歐洲ヘノ輸出品中ニテハ將來甚望アルモノナリ然



レ其需用ニ超過スルノ輸出ヲナスカ若クハ需用者ノ望ニ適セサル品ヲ輸出スルカ又ハ取引先キノ信據ヲ闕ク等ノ事アルトキハ忽チ其販路ヲ閉塞スヘキヲ以テ深ク彼是ノ事ニ注意セスンハ非サルナリ聞クカ如クンハ日本米ノ歐洲輸出ハ二十年末中絶ノ姿ニテアリシモ西曆一千八百八十一年己降再ヒ輸出ノ事アリシヨリ其需用ハ年月ト俱ニ擴張スルノ勢アリ尤富有者ハシヤワ米ヲ好ムモノ多シト畢竟從來ノ慣習モアルヘシト雖ヒ米質ノ最良ナルヲ以テ價值ノ如何ニ係ハラス之ヲ需用スルノ風習ナリ然レヒ其需用ノ區域ハ日本米ヲ需用セントスル區域ノ如ク廣大ナラス是レ日本米ハ米質良好ニシテ價格ヲヤワ米ヨリ遙カニ安價ナルヲ以テ一般ノ人民ノ好ニ適スレハナリ英領印度各地ノ米ノ如キハ一層安價ナリト雖ヒ米質遠ク

我カ日本米ニ及ハサルヘシ若夫レ日本米ノ需用區域擴張ノ順序ヲシテ誤ラシメスンハ蓋シ需用區域ノ大部ヲ占メ得ヘケン即チ荷蘭陀ズハソドルブ精米所ノ價格ハ左ノ如シ

精米五十臺ニ就テノ價格

五十臺四分ノ三ヲ以テ「ソドルエイト」トシ二十「ソドルエイト」ヲ以テ一噸トス

瓜哇	英貨二十志
日本	全 十二志
印度	全 十一志

因之觀之ハ一般人民ノ我カ日本米ヲ好ムヤ故アルナリ各地米商ノ言フ所ニ據レハ日本米ノ需用ハ年月ニ隨ヒ比例スヘカラサルノ需用ヲ擴張セリト若將來需用ノ度ニ超過



セス猶且需用ヲ関カン殊ニ輸入ノ氣節ヲ誤ラス商業上正  
實チ主トセハ將來ノ望甚タ大ナルヘシ目下歐洲ニテ米穀  
需用ノ額ハ概チ八十萬乃至九十萬噸ノ間ニアルカ如シ今  
龍動ニテ取調タル統計ニ依レハ左ノ如シ

年 度	需用即チ輸入額
千八百八十一年	米八十四萬二千〇〇七噸
千八百八十二年	米九十萬六千二百九十三噸
千八百八十三年	米九十二萬二千八百三十五噸
千八百八十四年	米八十七萬千三百九十五噸
千八百八十五年	米七十五萬八千百〇〇噸

如斯多額ノ需用中我カ日本米ノ輸入ハ甚僅少ニシテ其數  
額如左

年 度	輸 入 額
八十一年	米二千二百〇〇噸
八十二年	全三萬三千四百二十八噸
八十三年	全一萬四千六百五十噸
八十四年	全五萬六千三百四十六噸
八十五年	全九千六百〇〇噸

已上ノ數ヲ以テスレハ我カ日本米ノ輸出比例ハ概チ歐洲  
ノ需用高四百分ノ一ヲ以テ最小ノ輸入年トシ十五分ノ一  
ヲ以テ最多ノ輸入年トス而シテ前ニ掲クル瓜哇米トノ價  
格ハ十ト六ノ比例ナリ夫レ歐洲各國甚タ富メリト雖用其  
富有者ノ部分ヨリ寧ロ富有ナラサルモノ、部分多キニ居  
ルハ勿論猶且最下等貧窮者ノ部分ニ至テハ蓋シ我カ國ノ  
比例ニモ優ルヘキト想フ貧富ノ區別ハ何レニアルニモセ



ヨリ利ヲ以テ主眼トスル歐洲人果シテ我カ日本米ヲ利トスルニ至テハ焉ノソ之ヲ需用スルニ傾カサランヤ尤方今ノ商業ハ世界ノ競争中ニ勝ヲ制セスンハ非サルモノナレハ本哇印度トノ競争ハ素ヨリ免カレサルモノト覺悟セサルヘカラス

方今歐洲ニテハ日本米ノ需用ハ先ツ五万噸ヲ以テ目的トシヘシト云上ニ陳ルカ如ク將來大ニ望アルコモ係ハラス我カ國ノ不注意ニシテ彼ノカ需用ヲ充タシメサルモノハ左ノ數件ニ在リト聞ク

日本米ヲ歐洲ニ輸入スルハ需用ヲ充タシ即チ販路ヲ擴張スル目的ニ非スニテ時アリテ捨賣ニ來ルカ如ク何トナレハ年々輸出米ニ甚シキ不同アルト氣節ニ不係輸スレハナリ

元來我國ノ米ハ年ノ豐凶ニ因リ内地ノ需用ヲ充タシ餘ヲ海外ニ輸出スルノ事情ナレハ敢テ輸出ニ不同アル

モ答ムルニ非スト雖モ荷クモ海外輸出品ノ一ニシテ將來ニ供セントセハ凡輸出ニ定額ナカルヘカラス

五ヶ年目ニハ七万五千噸ト需用ヲ擴張スヘキ見込テ立テナハ蓋シ誤リナカルヘシト聞ク夢々一時ニ多額ノ輸出ヲナシテ需用ニ超過セシムヘカラス

抑需用ノ事タル一度需用先キノ得意トナルモノハ毎ニ其需用ヲ闕カシムヘカラスハ商業普通ノ事ナルニ日本米ハ需用者多シト雖モ時トシテ之ヲ買ヒ得又時トシテハ之ヲ買得サルニアリ如斯ハ需用トスルニ足ラストセリ

又時トシテ一時ニ數艘ノ輸入ヲナス等輸入ノ定則ナキハ需用ヲ擴張シ價格ヲ保持セシムヘキノ方法ニハ非サルナリ日本米ノ輸入氣節ハ新米ノ出來次第成ルヘク早キ方宜シ一月頃迄ニ初米ハ日本ヲ積出シ漸次積出シテ絶ヘサラシムヘシ七八月ノ候ニ積出スハ尤モ惡シク熱帶地方ヲ經



過スルノ際大ニ米性ヲ損スレハナリ然ルニ日本商人ハ氣節ヲ計ラズ猶且價格ノ如何ニモ問ハス所謂目的ナシニ積出スモノ、如シト云フ方今歐洲需用者ハ固ヨリ味ノ如何ニ係ハラサルニ非スト雖也主トシテ其色ノ純白ニシテ光澤アリ而モ其粒ノ大ナルモノヲ尤モ好スルナリ但白玉トテ粒中ニ白キ星ナルハ嫌フト云フ

越後米(總テ北國ハ)輸入スヘカラス兎角熱帶地方ニテ變色スルナリ甚シク變色シテ價格五十臺ニ付九志位ノモノヲモ見受ケタリ且變色米ハ同船積込ノ他ノ良米ニ迄其色其臭ヲ移スモノナリ

米ハ玄米ノ方宜シ精米ヲ輸入スレハ色澤ヲ失シ之ヲ再精スルモ純白トナラサレハナリ

米ノ價格ハ三月頃迄ニ著ノ分直段宜シ總シテ毎年一月ニ

リ順次「ホンドルエート」ニ付半志程宛ハ下落スルノ例ナリ

日本商人ハ見本ニ劣ル處ノ米ヲ送ル事多シ然レハ賣主ニ在テハ當初見本ニテ約定シタル價格ニテ賣却スルヲ得サルノヨナラス買受人ニ在テハ假令價殖ヲ下クルモ其損耗ヲ償フニ足ラサレハ自然日本商人ト取引スルヲ拒絶スルノ媒介トハナルナリ夫レ然リ然レ此見本ノ事ニ就テハ一概ニモ論シ難ク何トナレハ少量ノ見本ト大量ノ現米ハ同品同質ノモノニテモ航海中米性ノ保持力ニ差異ヲ生スルト辨スル人モアリ併セ掲ケテ參考ニ供ス然レハ歐商ノ我日本ヨリ送ルモノハ見本ニ決シテ差異ナシト一方ヨリハ辨スルアリ

因ニ云千八百八十四年蘭國ズハンドル精米所ニテ我



日本米二万袋ヲ三井物産會社ヨリ購入シタリシニ其内  
七千袋ハ見本ト格外性劣米ヲ送越シタルニ依リ即チ式  
ノ如ク評價人チテ評價セシメ價格ヲ下ケタリ然レモ  
買請人ハ其價格ヲ下ケタル位ニテハ營業上ノ損耗ヲ價  
フニ足ラス故ニ右等不正ノモノト取引チナスヲ好マ  
ストテ斷然取引ヲ拒絕シ爾來ハ獨乙人ニテ横濱居留ノ  
甲九十番ヨリ日本米ヲ買請シルコトナセリト云  
總テ米ハ見本ヲ以テ賣買スルノ例ナレハ未ダ現米ノ入津  
己前ボレサキード着船ノ電報ニテ問屋ハ之カ賣買チナシ  
其買請地即チ龍動ナリ漢堡ナリアイムスタルダームナリ其  
他何レヘニテモ回送スルノ例ナリ故ニ見本ヨリ劣ルノ現  
米ヲ輸入スル所ハ評價チ以テ直下ケチナスモノナリ  
スエス、カナール開鑿後ハ我カ日本米ノ歐洲輸入ニ於テモ

著シキ辨理ヲ與ヘタルモノニシテ方今瀛船ノ便宜ハ僅々  
四十日内外ノ航海ニテ達シ得ルモノナレハ風帆船ニ一艘  
向キノ米ヲ積ムカ如キ舊法ニ依ラス汽船ノ航海毎ニ二百  
噸乃至五百噸宛積入ルレハ船中荷物積卸シノ際ニモ風入  
レトナリ米質ヲ損セス且需用ノ序ヲ逐フテ輸入スルコト  
得ルノ一舉兩得アレハ必シモ運賃ノ差ニノミ關スヘカヲ  
ス尤十一月ヨリ三月頃迄ハ風帆船チ一艘向キ積送ルモ損  
シ米トハナラサルヘシト云  
日本米ヲ歐洲へ輸入スルモノ數々アルヘシト雖モ重ナル  
モノハ左ノ如シト聞ク

三井物産會社

外ニ大坂商人一二名

シキボルトコンパニー



若二會社ト四十六番及二十五番  
 ハ同物ニハ無之カ數ヶ所ニテノ  
 聞取故其同一物否ヲ保セス  
 米ノ需用地ハ各地ニアリト雖也方今重ナル輸入港ハ左ノ  
 如シ

- 蘭國アームステルダム港
- 全ノツラルダーム港
- 獨乙國ブレームン港
- 全漢堡港
- 澳地利國ヒヨム港
- 伊太利國ゼノワ港

己上ノ各港ニ輸入マテ之ヲ精米トナシ歐洲大陸ハ勿論亞  
 米利加各地ニ迄輸出スルモノト云英國ニテモ少シクハ需

用アリト云未タ其實地如何ヲ識ラス  
 米ノ品位ハ瓜哇及「カルキタ」米ヲ上等トシ日本米之口次ク  
 印度米ハ最下等ニ至テハ精米五十臺ニテ六志九メンズ位  
 ノモノアリ是等ハ馬鈴著ニ代用マテ焼酎製ニ用フルト云  
 然レハ印度米ノ賣捌ニハ英人尤モ注意シ殊ニ從來ノ得意  
 既ニ成リ需用甚多キ故ニ小賣捌人ハ口錢少クモ之ヲ賣捌  
 クチ利トス日本米ハ得意未タ少ナク小賣捌人ハ印度米ニ  
 反スルノ狀況ニテ兎角口錢ヲ多ク得ントス故ニ需用者ノ  
 擴張ヲ計ルニハ是等モ障害ノ一因トハナレリ  
 米ヲ精米トナスニ碎米ノ割合ハ如左

瓜哇米	百分ノ二
日本米	百分ノ五
印度米	百分ノ二十



米ヲ精米トナスノ磨減割合ハ概テ如左

瓜哇米	百分ノ十
日本米	百分ノ二十
印度米	百分ノ四十

米ノ需用ハ各地ノ豐凶ニ依リ消長アルハ勿論ニシテ本年ハ緬甸不作ナレハ日本米ノ需用ヲ増スヘシト云然レモ日本豐作故直段下落スヘシト聞ク日本米ハ一等二等迄ヲ輸入スヘシト下等ノ米ハ方今望人少シト云

日本米ヲ賣捌クハ歐洲中何ノ地ニテモ其重要ノ港ヲ選ビ問屋ノ確實正當ナルモノニ委嘱シテ賣買ノ掛引ヲナサシメ尤時々差直ヲ附シテ賣買ナサシムルヲ得策トス而シテ現米ノ回送ハ前陳セシ如クボルサナト着港ノ上該問屋ノ指揮ニ依リ回送スヘケレハナリ尤問屋ハ純粹ノ問

屋ニシテ其身米商ナスルカ如キモノハ決シテ委嘱スル任ニ當ラス

日本米ノ輸入ハ蘭國アームステルダム并ノツテルダム最モ盛ンナリ是レ器械精米所多ケレハナリ之ニ次クハ獨

乙國ブリーメン及漢堡港ナルヘシ畢竟歐米各地ノ需用先キコハ精米トナシテ送レハナリ米ヲ需用スルハ何等ノ点

ニアルカハ緊要ノ件ナリ然レモ其需用ハ一概ニハ指定シ難シト云但其重ナル需用ハ「ソツプ」用「サキスカレー」用肉

米昆炊用「アミントン」(澱粉トテモ譯スヘキ米ノ細胞中ニ製シ上ケ之ヲ菓子用粘用白紛)用トス

本年ノ玄米直段ヲ讀ルハ緊要ナリト雖モ個々實業家直接引合ニ非サレハ商業ノ掛引ヲ誤ルノミナラス未タ本年ノ相場ハ確定セサルモノ、如ケレハ畧之



附言米ノ賣捌方畧ニ付テハ各地ノ米商言フ所一ナラヌト雖也之ヲ政府ノ直賣捌キトナシ問屋モ確實ナルモノ一人ニ托スルヲ尤モ長策ト辨スルモノアリ是ノ畢竟從來輸入上ノ弊害等ニ感シテナルヘシト雖モ其事爰ニ陳スルニ忍ヒス各國米ノ見本ハ在獨乙公使館及佛蘭西公使館へ相托シ送致シ猶其己前農務局長へモ送致セリ併セ御參觀アラソイテ

煙草ノ輸出ニ關スル景況ノ管見

歐洲人ノ煙草ヲ嗜好スルヤ實ニ推想ノ外ニ出テタリ我國人モ煙草ヲ好ムノ風俗ナリト雖也歐洲人ノ嗜好ハ遠シ超越スルモノニシテ煙草ハ日用ノ一大需用品ノ位置ヲ占メタルモノト云フヘシ今其一二ノ例ヲ舉ケハ歐洲人ハ幼年

者(十二三歲以上ノ者)ト雖モ之ヲ口ニシテ坊間ヲ徜徉スルモノ多シ

就中葡人ヲ甚トス我國人ノ卷煙草ヲ用ユルノ區域ハ狹小ナリト雖モ歐洲人中等以上ノモノ、外出ニハ卷煙草ニ限レルカ如シ(自宅ニテハ「シガレツト」又「ハ刻煙草ヲモ用フレト」)如斯景況ナレハ卷煙草需用ノ夥シキヤ可議ナリ而シテ斯ク需用ノ多キニモ係ハラス我國産出煙草ノ歐洲輸入額ハ頗ル僅少ナリト謂フヘシ尤歐洲人ノ嗜好スル上等煙草ハ南米諸國ノ産出ニ係ル(印度ノヌニラ産ハ上等ノ聞ヘアルモ市上ニ其賣荷ヲ多ク見ストモ「シガレ」ノ外卷ニ至ツテハ印度ノスマタラ産又ハ我國産出ノモノヲ以テ一般ノ需用トセリ其一例蘭國ノアームステルダム港ニ輸入シテ賣捌クモノ、ニコテ七十臺乃至百臺入ノモノ三十萬俵ノ多キニ及フト云何ソ外卷煙草需用ノ大ナルヤ



夫ノ煙草耕作ノ我國ニ適スルヤ世ノ許ス處タリ漸時耕種倍養及ヒ製法ニ改良ヲ加ヘハ必スモ歐洲人ノ嗜好ニ適セサルニ非サルヘシ然レハ俄カニ歐洲人ノ嗜好ノ地位迄ニ達スルハ容易ノ業ニ非サレハ漸々改良ノ目的ヲ立テ先以テ目下ニシテガルノ外卷タルノ需用ニ適セシムルヲ以テ急務トナスヘシ若シ此外卷用ニ適スルニ至ラハ其需用ノ額ヲ増加スル而已ナラス大ニ價格ヲ昇騰セシムルモノト聞フヘシ何トナレハ均シク外卷用トナシテ歐洲ノ需用ヲ占メタルモノハ蘭領印度ノスマタラ產出ノ煙草ナリトス其價格ヲ我國產出ノ煙草ニ比例セハ如左

産地名	上等一臺ノ價格	下等一臺ノ價格
印度スマタラ	蘭貨五フロラン	全三フロラン
日本	全一フロラン廿仙	全一フロラン

但蘭貨「フロラン」ハ凡我通貨ニ直目下五十錢ニ當ル如斯價格ニ差異ヲ生スルハ何等ニ原因シテ然ルヤヲ探究スレハ其重ナル原因ハ第一葉ノ製シ方及荷造ノ如何ニ因ルモノト葉ノ製シ方及荷造ノ事タルスマタラ產ノモノハ一葉毎ニ引絞リテ四十枚ヲ一束トシ七十臺ヲ一個トナシ之ヲ付桶又ハ袋ニ入レタル荷造ナリ尤モ葉ノ大小ヲ類別シ殊ニ破レ葉ヲ少シモ交ヘサルナリ我國ヨリノ輸入煙草ノ製シ方ハ之ニ異リテ大小ノ葉ヲ類別セズ隨テ破レ葉ヲ撰ミ除クイモ疎ナリ且一束ヲトナスニハ重子葉トシ之ヲ付ケ箱詰又ハ袋入トナシタルモノナレハ之ヲ一葉毎ニ引離スニハ大ニ人力ヲ要スル而已ナラス之レニ濕氣ヲ加ヘサレハ引離シ惡ク破レ葉ヲ多ク出ナリ爲メニ濕氣ヲ加フルルハ當時引離シハ能ク猶且



外巻トナスニモ便ヲ覺ユト雖も製シ上ケノ後日ヲ經テ悉ク小籠甲ニ破レボロ々々ニ破レ落ナテ需用ニハ適セサルナリ若シ之ヲ改良セシニハ第一スマタラ製ノ如ク引離シニ便利ノ製方荷造トナサ、ルヲ得ス元來日本煙草ハ葉ノ廣キテ遠クスマタラ産ニ超越スル而已ナラス其葉薄クシテ外巻ニハ甚ダ適當ナリト云フ故コスマタラ煙草ハ一臺ニテシガル千本ノ外巻ヲナスヘキモ日本煙草ハ一臺ニテ千五百本ヲ製シ得ヘシト如此日本煙草ニハ外巻用ニ就キ望テ展スル者ナレハ其製シ方及荷造ノ改良ヲナサハ蓋シ販路ヲ擴張シ價格ヲ騰貴セシムルハ不容疑ナリト聞ク第二必用ノ點ハ葉色ヲ黒クシ味ヲ強クスルコトアリ日本人ハ強キヲ好マサルハ通例ナレハ歐人ハ強キ上ニモ強キヲ好ムナリ此二点モ亦宜シキヲ得ハ無論スマタラ産ヨリ需

用多キニ至ルヘシ其無臭ニシテ匂ヒナキカ如キハ敢テ拘ハルニ非ラス畢竟外巻ノ需用ニ止マレハナリ」  
第三注意スヘキハ日本煙草ノ燒灰ハ風色トナリスマタラ産ハ白灰トナル白灰ニ非サレハ需用ニ適セサルナリ何トナレハブラジル産アバンス産（南米ニ屬テ西班牙ノ屬地）等ハ最モ上品ノ煙草ニシテ燒灰白ケレハ之ノカ外巻ニハ白色ニ非サレハ用ヒラレサルナリ故コ方今專ラスマタラ産ヲ以テ是等上品ノ外巻ニ用ヒ魯國產荷蘭陀產等中己下ノ品ノ外巻ニ日本産ヲ用フト云フ  
歐洲ニ煙草需用ノ擴張セル一例ヲ掲クレハ抑スマタラ産ノ蘭國輸入ハ距今十五年前ニ始マレリ當初ノ輸入ハ僅カニ五十俵アリシモ方今ハ一ケ年凡七百五十万斤ノ多キニ及ヒ現ニ微生アームステルダムニ滯在ノ日ニ在テ一日



二百五十万圓程ノ取引出來タリ猶且スマタラ産ノ煙草ハ單ニ歐洲ノ需用ニ止マラス亞米利加諸洲へモ多クノ販路ヲ得タリト聞ク

爰ニ日本輸出煙草ニ就キ注意スヘキ要點ヲ再ヒ摘用スレハ如左

- 一葉ノ大小ヲ類別スル
  - 一異色ノモノヲ同荷造トナスヘカヲサレ
  - 一色合ヲ蘭向キ獨向キト各其望ニ依リ選分シ
  - 一葉一枚毎ニ引絞リテ四十枚ヲ一束トシ七十葉ヲ一個トナス
  - 一培養法ヲ研究シテ燒灰ノ色ヲ白クスル
  - 一味ヲ強クシ及葉色ヲ黒クスル
- 因ニフ英人ハ黃色ノ煙草ヲ好ムカ故ニ日本ノ煙草ヲ刻

煙草トナシ之レニ「コンニヤク」其他ノ句ヲ加ヘ用フト云然レハ英國ニテハ一臺ニ付英貨「ニール」程ノ課税ナレハ賣捌多カラス蘭國ハ五十臺ニ付僅々蘭貨六十仙ノ課税ナレハ輸入額ノ多キ蘭國ニ及フモノナシト聞ク但シ英國ノ「ハ該國」ニ至リ尙取調ノ上開申セントス煙草ノ價格ニ等級之著シキ一例ヲ左ニ掲ク

上等「シガル」一本ニ付代價ニ「フロラン」五十仙

此外卷ニスマタラ産ヲ用ユ尤モ最上等ニハ外卷ヲ用ヒスト云其價格モ亦高價際限ナシト雖ヒ茲ニ掲クルノ要用ナキヲ以テ省ク

下等「シガル」千本ニ付代價六「フロラン」乃至七「フロラン」此外卷ニノミ

日本産ヲ用フト云フ宜ナリ價格ノ下卑ナルヤ



スマトラ産ノ煙草ハ「コンパコー、スマトラ」一手ノ事業ニシテ賣上高方今概チ一千万弗ナリト聞ク爲メニ多クノ利潤ヲ得該會社ノ株券利子ハ連年九割強ノ配當ナリト聞ク反之一ノ煙草會社ハ失敗打續キ殆ント身代限リトナレリ是レ無他栽培地ノ地理ヲ得スシテ潮風ノ害ヲ請クルニ因ルト云フ

煙草ハ品質サヘ宜シケレハ價格ハ何時ニテモ能ク賣レルモノナリト其故ハ賣荷十俵毎ニ一俵宛見本ヲ引出シ之ニ番號ノミヲ附シ無名ノ投票ニテ賣買價格ヲ定ムレハナリ故ニ其品ノ惡敷モノハ格外安價トナリ損失ヲ免カレサルモノナリ

明治廿二年三月一日印刷

明治廿二年三月十六日出版

鳥取縣因幡國邑美郡西町三十九番地

編纂發行所

# 因伯私立勸業會

全縣全國全郡大榎町十一番地

幹事 島田 潔 躬

全縣全國全郡片原町二丁目百八十七番地

全 大 村 治

全縣全國全郡東町六十四番地

印刷者

吉田 八 得



(禁賣)